

## 畜産共進会を顧みて

第13回岡山県畜産共進会は山紫水明の高梁市で10月10日から4日間願ってもない好天に恵まれて、極めて好条件に恵まれた会場で盛会裡に終始、充分その目的を達することができたが、これは地元高梁市その他関係諸機関の御協力の賜に外ならないと感謝している。

今年の共進会は会場の決定が例年より相当おくれ、また出品家畜の種類と頭数などもやっと7月末になって決まったような次第で、出品者側からすれば十分な時間的余裕をもって出品準備をすることができなくて、この点非常にすまないことをしたわけで、事務担当者として誌上を借りて深くおわびしなければならない。喉元過ぎて熱さを忘れてしまって、来年もこのようなことをすっかり忘却の彼方へ押しやって、徒らに前者の轍を繰り返してはならないと思って、ここで共進会を反省し、来年はこんな心構えで臨んだらどうかというようなことを記して見よう。

さきにも述べたように会場の決定が遅れては出品準備などに大いにさしつかえるので、どこで、いつ、どの位の期間、どんな種類の出品を幾らずつにするか、関係機関のそれぞれの役割はどのように割振りするかなど、共進会の総体的な規模の決定は早ければ早いほどいい。さもないと出品する側はじっくり腰をすえて出品対策を樹てて、共進会の目的に相応しいものを出すことができにくくなる。来年の共進会については余り遠くない機会にこれらのことを決めてもらいたいと思っている。

来年は和牛、乳牛の外に少くともめん羊と山羊とを加味したものであってほしい。これらの種畜共進会は家畜改良の上に極めて大きな効果を齎すと確信できるから。もちろん豚と鶏もとあらゆる家畜を網羅した

総合共進会が理想ではあるが、現状では余り欲張らないで名よりも実をとる方が具体的な説明はぬきにして賢明だろうと思われる。

世の中が進歩して来ると畜産共進会が種畜だけの出品では物足りない、もっと農家の経営に深くタッチして畜産経営がどんなにうまく取り入れられているかなどについてまで触れなければ共進会の真面目を發揮することができないのではないかとする向もあると思われるが、なるほど至極もったもな話で同感だ。と同時に日本の農家の大多数は零細な規模で集約的な経営をしているので、飼っている1頭1頭の家畜の改良がよく進んでいて、経済的に能力が高いかどうかは農家経営を大きく左右する。これが大家畜であればなおのことであるから、家畜の改良手段の一つとして種畜の共進会が殊更重要視されるのも当然であろう。

種畜の共進会では生れつき優れた家畜にこれ以上ないようないい飼養管理技術をほどこして、その家畜のもつ天分を遺憾なく發揮させて出品して始めて価値がある。このようなものを1ヵ所に集めて現状に基いてあれこれ比較審査して出品の優劣を決める。審査の過程において何故このように優劣をきめるかが一見してよく一般参観者に認識できるように展示効果をねらいつつ審査を進める。われわれの年輩の者が学窓を出た頃は、褒賞授与式で始めて等級がわかる仕組みになっていて、審査の過程ではどれがいいのか悪いのか一般には皆目見当がつかないようにするのが、審査官の苦心するところであり、一つの手腕とされていたが、今考えると何のために共進会をするのか、ただ等級を争うことが共進会の目的のような錯覚に陥っていたとしか思えないことが、真面目くさって行われていたものだ。

## 岡山畜産便り1957.11・12

共進会に臨んで予め等級の枠をきめて置いて、席列の順に上から等級にはめて行くやり方は改めたい。物事には何でも予定がなければならぬが、予定はあくまで予定であって、予定によって結果を束縛してはならぬ。今年の共進会の和牛に例をとって見ても、牛の格から言って当然同じ等級にすべきものが生身を割くように、片一方は上の等級で片一方はその次の等級になることを余儀なくされたり或は当然三等賞になれる実力のものが四等賞でがまんしなければならなかったりという事例があげられたと思う。このようなむじゅんはなくしなければならぬ。

等級や順位にこだわることも依然として困った問題だ。誰しも出品するからには少しでもいい成績を得たいのは当然であるが、冷静に謙虚な気持で審査の結果を見る余裕がほしい。なるほど共進会でいい成績を得ればその出品は高く評価されて、たいへん高く売ることができるし、このような出品を出した地方は総体的に改良の進んだところとして名声を博する結果となる。しかし結果がこうだからと言って販売戦術のために共進会という場を利用することは邪道に類する。このような欲が伴うので、等級は勿論同じ等級の中での席列にまで神経過敏になるので、こんなことはむしろ滑稽だと思う。このようなことを緩和する意味からも来年からは同じ位のもを同じ等級に置いて、その時の僅かの状態のよしあしで変る席列はつけないことにしたらどうか。

褒賞授与式の長いものもどうかと思われる。何とか工夫はないものか。会期中にそれぞれの道のエキスパートに審査のあいまに2、30分位ずつ講演して貰うことも効果的だと思う。この拙文に対し少しでも皆さんの共感を得れば幸いだと思う。(11. 6M・H)